6人目の地域おこし協力隊

「地域貢献」を大切に



なぜ御船町で地域おこし協力隊に？

地域おこし協力隊を知ったのは、震災後、さまざまな分野で支援する熊本復興委員会での活動がきっかけです。活動を通して、御船の方と知り合いになり、御船の現状を聞いているうちに次第に興味が湧き、御船町で働きたいと思う気持ちが強くなりました。

「地域貢献」がコンセプトであり、自分の生まれた熊本が「どうやったら盛り上がるか」、「どうやったら楽しくなるか」常に考えています。そこで今回、地域おこし協力隊として働くことは、とてもうれしくやりがいを感じています。

どういう活動を？

震災後の記憶を途絶えさせないように、一つの作品として、目に留まるようなものを作ります。事業所と雇用のマッチングやWEBデザインも同時に取り組んでいきます。

どういう町にしたいか？

御船町は、自然もあり、観光地もあり、交通の便もいいところ。多くの家族連れに来てもらい、市内で働いている人たちも、生活は御船でと思えるような環境づくりをしたいです。そして御船町の情報をITを通して外にも、どんどん発信していきたいです。


地域貢献への想いを熱く語る永瀬さん

文部科学大臣賞受賞

木工チャレンジで日本一



1月20、21日、東京都で第18回全国中学生創造ものづくり教育フェア木工チャレンジコンテストが開催され、九州大会を勝ち抜いた御船中学校の岩本真輝さん（2年）が、日本一の称号となる「文部科学大臣賞」を受賞しました。

踏み出した夢への歩み

岩本さんがつくった作品は「トレイ付きサイドテーブル」。「競技中は、緊張したが、いつも作品をつくるときは、今までで一番の作品をつくるように心がけている」と語った。岩本さんは、〝のみ〟を上手く使い、トレイのゆがみをなくすなどの技も披露。作業ミスもなく、予定より30分早く終わり、残り時間は、作品の細かいところまでヤスリをかけ、最後までこだわりを見せた。「自分のためにつくりなさい」との日ごろの母の言葉に集中して作品をつくった岩本さん。結果を聞いて、「まさか本当に選ばれるなんて」と喜びの言葉を漏らした。ものづくりへの想いと努力が実を結んだ瞬間だった。

3年生になったら、ロボット研究・制作を中心に活動し、日本一への目標を掲げた。将来も、〝ものをつくる〟ことに携わりたいというその想いは、今回の受賞でさらに強いものとになったようだ。


藤木町長たちに報告した岩本さん（中央）



















祝　成人 はたち日和

会場全体がスタジオ―

新たに人生のスタートを切った新成人たち

白壁や和の趣き深いよろず屋に多くの人が集まりました―

1月7日、御船しあわせ日和実行委員会はたち日和運営部（緒方明子実行委員長）が、新成人のために御船街なかギャラリーを会場としたイベント「はたち日和」を開催しました。このイベントは、色鮮やかな着物を着た新成人を、風情ある街なかギャラリーでお祝いできないかと考え、同時に町のPRもできないかと、クラウドファンディング（資金援助システム）を利用。全国から、たくさんの支援協力があり、実現しました。訪れた新成人たちは、竹のおちょこで甘酒を飲んだり、手作りぜんざいを食べたりとたくさんのおもてなしを受けました。ギャラリー内では、初めて訪れた人たちばかりで、和の趣き深い空間に記念撮影を撮る人たちでいっぱいでした。新成人の池田勇人さん（高木）は「こんなに和むところがあるなんて知りませんでした。みんなに広めたいです」と話しました。新成人たちは、ギャラリーの落ち着いた空間に癒され、応援してくれる御船人の温かい気持ちに触れたところで「はたち日和」を満喫しました。